一般社団法人 鹿児島県中小企業診断士協会

令和元年度会報

会報 第２０号

令和２年２月２２日発行

〒890-0046 鹿児島市西田２丁目20番26号401
TEL･FAX 099-258-1871
e-mail ： sindankagoma@coda.ocn.ne.jp

《 目　次 》

☆ 新春のご挨拶　・・・　会長　　田中　博道

☆ 県内中小企業の防災、ＢＣＰの取り組み支援について　・・・久保　武志

☆ 独立２年目の所感　・・・　福岡　正人

☆ 生き方？　・・・　浦島　和衛

☆ 熊本駅まえ変貌中　～鹿児島中央駅まえに追いつくことができるのか？～

・・・　桐山　馨

☆ 事業承継支援に携わり　・・・　鮫島　省吾

☆ ゴルフデビューと鹿児島県診断士協会活性化への提言　・・・　大山　公士

☆ 年頭雑感（昨年を振り返って）　・・・ 黒坂　和民

☆「小槌のりネズミ」小幡人形（滋賀県）　・・・　岩元　耕児

☆ 地球環境問題と中小企業の環境経営　・・・　久留　正成

☆「国運の分岐点」を読んで　・・・　今別府　忍

☆ 探求を楽しむ　・・・　月野木　勝彦

☆「Ｄｅｅｐ天文館★路地裏探検記 ～2019 秋」　・・・　瀬戸口　晴子

＜会員寄稿：掲載順不同・敬称略＞

新春のご挨拶

会長　田中　博道

あけましておめでとうございます。旧年中の一般社団法人鹿児島県中小企業診断士協会へのご支援・ご協力に感謝申上げるとともに心より新春をお慶び申し上げます。

本年（令和 2 年）は我が国においてはオリンピックが 7 月 24 日から 8 月 9 日までの 17 日間、パラリンピックが 8 月 25 日から 9 月 6 日までの 13 日間

わが鹿児島県においては第 75 回国民体育大会が 10 月 3 日から 13 日の 11 日間、第 20 回全国障害者スポーツ大会が 10 月 24 日から 26 日の 3 日間、開催されます。

鹿児島国体ＨＰおよび東京オリンピックＨＰより引用

当協会の令和 2 年度の主なイベントは以下の日程（一部予定）で行われます。

1．	通常総会（事前に理事監事選挙）	令和 2 年 5 月 23 日（土）	予定
2．	理論研修	令和 2 年 8 月 1 日（土）	午後 0 時より
3．	九州沖縄ブロック会議	令和 2 年 9 月 25 日（金）	鹿児島で開催
4．	診断士の日記念イベント	令和 2 年 11 月 7 日（土）	予定
5．	新年会・研修会	令和 3 年 2 月 6 日（土）	予定
6．	鹿児島専門士業団体無料相談会	令和 3 年 2 月 13 日（土）	当会担当　予定

当協会も上記イベントをはじめ、関係機関および中小企業者や小規模事業者からのより一層の信頼・信用を得られるよう諸活動に積極的に取組んでいく所存です。

会員および関係各位の今までにも増してのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

県内中小企業の防災、ＢＣＰの取り組み支援について

久保武志

2020 年もよろしくお願いいたします。

2019 年は、従来のコンサル活動に加え、新たな取り組みとして、県内中小企業の BCP 策定支援のお仕事を受注し、活動させて頂きました。その中で、いくつかの発見、気づきがありましたので、若干ご紹介させて頂きます。

BCP とは事業継続計画（Business Continuity Plan）のことです。鹿児島県内の中小企業の BCP 策定は、民間コンサル会社調査によると、全国平均（16%程度）と比べて、12%に至らない状況といわれています。県内が全国平均よりも低いのは、それなりの理由があり、鹿児島県内は、中小企業の中でも小規模企業、また個人事業の割合が多い点、さらに、鹿児島気質をよく表しているといわれる「てげてげ（適当、いい加減)」といった風土、文化により、発生頻度の低い自然災害等への対応については、企業活動として対策の優先度が低く評価される傾向があるのかもしれません。

もちろん、上記のような風土、文化を否定するつもりはありません。ただ、最近の「想定外の自然災害」が全国的に多発している点や、政府（もとは国連）の SDGs に関する施策の推進などで、中小企業でも防災や BCP に対する取り組みが徐々に増えつつあるようです。ちなみに、想定外の自然災害がなぜ増えているかというと、ある気象予報士のお話によると、統計上、昔と比べて台風や低気圧の通り道が変化してきたことが影響しているそうです。簡単な例でいうと、ある地域で、昔から雨季の時期は、強い雨風が「南から北向き」に吹く傾向だったのが、逆に「北から南向き」に吹く現象が増えていったとしましょう。すると、従来、南からの強い雨風に対する対策は、山肌の南側斜面の法面整備等万全であった地域が、北からの強い雨風に対しては北側斜面の法面保護等が未整備で脆弱性があるがために、そこが一旦被災すると被害が甚大となる傾向にある、といった点が容易に想定されます。当然といえばそうですが、最近の気象現象をみると、確かに該当するケースが増えているように思います。

さて、2019 年は、ある県内の中小企業様で、主に防災活動に重点を置いた BCP 策定のご支援を行いました。県の予算（中小企業経営バックアップ事業費補助金）で BCP 策定費用の一部が補助される点も、支援先企業様のモチベーションアップにつながったものと思われます。支援先企業の社長及び各部署の責任者４～５名にご参加頂き、複数回にわたり、毎回私が BCP のたたき台を提示した上で、ファシリテートしながら進めていきました。これまでの経営コンサル活動では、概ね業務改善や経営目標設定といったテーマで進めることが多いのですが、議論が紛糾、停滞しがちで、参加者のモチベーションも低い状況が見受けられることがしばしばです。しかし、防災や BCP に関するテーマとなると、参加者の

意見が非常に積極的、前向き、活発となり、とても議論が盛り上がり、あっという間に時間が過ぎていく傾向があります。つまり、自社の社員、部下、家族の身の安全の確保や安否確認、さらには取引先との被災時の関係強化や早急な事業復旧、については参加者の身近なテーマでもあるため、高いモチベーションが維持できるようです。これは、社内コミュニケーションの活性化、一体感の醸成の点でも効果的であるといえます。また、これまで事業継続に重要な社内資産（機械設備、車両、情報資産など）の運用状況を正確に把握、特定する機会がなかった、という意見も多く出ました。例えば、情報資産の保全では、社内のファイルサーバに保管されている重要な業務データのバックアップ状況が不明瞭であったため、今回情報システムの課題が見えてきて、バックアップ作業の頻度、タイミング、範囲など、システム運用の見直しを行う良い機会となった、とのことでした。このように、単なる BCP 策定だけでなく、そのプロセスの中で、いくつかの業務改善の効果を見出すことができた点も、とても意義深いものだったと思います。

中小企業診断士のお仕事として、今後、BCP の策定支援業務が爆発的に増えるかというと、依然として難しいものと思われます。ただし、着実に県内企業でも支援ニーズは増えつつありますので、必要な場面で適切に対応できるよう体制、準備を整えておきたいと考えています。また、防災計画や BCP では、計画段階で終わらせず、その計画を元に定期的な安全訓練や社内研修会の開催により、社員への定着を図りつつ、継続的な改善活動として取り組むことが重要なポイントとなります。今後、専門家として継続的なご支援ができるよう取り組んでまいりたいと考えています。

以上

中小企業庁ＨＰより引用

独立２年目の所感

福岡 正人

まずもって、昨年は、多くの皆さまのお力添えをいただきましたこと、紙面を借りてお礼申し上げます。事業承継計画書の書き方をアドバイスして頂いた先生、行政提出用の相見積もりを書いて頂いた先生、セミナー講師に呼んで頂いた先生、助成金のお客様をご紹介頂いた先生、その他数多くのご指導を頂いた皆様、皆様のおかげで充実した 1 年を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

早いもので、この 4 月で、独立後 2 年が経過します。この間、多くの方との出会いがありました。今、名刺アプリ Eight には 691 枚もの登録があります。ほぼ 1 日 1 人の方と出会った計算です。多くの方との出会いにも感謝です。

ところで、私が、初めてお会いする方によく言われることがあります。それは、

「こんな仕事より薬剤師の方がよかったでしょう？」という質問です。

何をもってよかったでしょうと言っているのかはよく分かりませんが、この質問をする人は診断士の仕事をよく分かってなさそうな人達が多いです。この質問にはいつも適当に濁した返事をしていますが、実際のところ、その答えは半分 NO であり、半分 YES です。

やらしい話、昨年 1 年間の収入は前職を超えていますので、その点では NO です。さらに、毎日早朝から深夜まで仕事している割には不思議と疲労感を感じず、面白さを感じながらやっているという点でも NO です。しかし、収入は増えているといっても、時給単価では激減していますので、その点では声を大にして YES！ですし、少なからず家庭を犠牲にしている点でも YES です。(娘のお遊戯会に行けなかったときは少々辛いものがありました。)とは言っても前職に戻りたいと思ったことは 1 度もないので、結論としてはやっぱり NO です。

そんな私も独立当初は、仕事があるかどうか不安でいっぱいでした。今は仕事を受けすぎて納期に間に合うかどうかの不安と戦う日々です。ありがたいことです。

よく診断士は、(資格を)とっても食えないという意味で「足の裏の米粒」などと言われますが、覚悟さえあれば全然食えます。私はその意味で「足の裏の米粒」だと思っています。

今年は、他人の足の裏についた米粒さえも食う覚悟（どんな覚悟だよ）を持って仕事に邁進していきますっ！

今どきの医学博士 HP より引用

生き方？

浦島 和衛

この 12 月に義母が亡くなった。108 歳とわが親族の中でも特別に長寿であった。義兄夫婦と同居であったが 99 歳まで自分の炊事・洗濯・掃除をこなし、耳が遠い以外は不自由はなかった。体調を壊し足元がおぼつかなくなって入院して 9 年、病院のベッドで寝たきりの生活、病院の方針で食べ物は差し入れできず、ミキサーにかけた病院の食事だけであったにも拘わらず、最後までたまにしか会わない娘婿の私もしっかり認識できていた。早くお迎えが欲しいというのが口癖だったが、8 月末に癌が見つかり次第に衰弱していった。11 月末の誕生日を無事迎え、年賀状をどうするか、正月を越せるかもと気を揉んでる最中に訃報が届いた。富田林市の最長老だったらしい（数日後、わが薩摩川内市の最長老も 108 歳で逝去の報あり)。病院でも当然最長老であり、新人看護師や子供の見学があると必ず模範患者として義母のベッドの周りを囲んだらしいが、好奇心が強く愛想を振りまけるのがボケない秘訣だったのだろうと思う。

その 1 ヶ月前の 11 月に高校卒業 50 周年の集いがあった。同期 330 人の内、23 人が既に物故者となっており約 100 人が鹿児島に集まったが病気持ちの多いこと。翌日、癌治療中で参加を見合わせた医者を 3 人で見舞った。件の医者は再発治療中で小康状態、見舞客の一人の医者は癌克服済み、もう一人の M 君は 4 度目の転移で治療中という。その彼の言。4 度目ともなると過去 3 度の治療や現状使っている薬との関係もあり、治療法が限られてくるが、新しい治療法も次々と論文が出ている。そこでグーグルで検索して新しい論文を探す（殆どが英文らしい)。そして自分で納得できる治療法を持って対応してくれそうな医者に会いに行き意見の合う医者を見つける。現場の医者は忙しいため、最新の論文を紹介すると M 君の話しに興味を持ってくれるという。「よくそんなことができるな」と聞くと「だって他にやることがないんだもの」との返事。再発治療中の医者に「俺は医者より詳しい。お前ももっと積極的な治療法を選択しないと先は永くないぞ」とのたまって帰っていった。

マラソンの日本記録を持っていた宗茂の話。宗兄弟は一度もレースで瀬古に勝ったことはないのだそうな。現役時代、瀬古は監督に宗兄弟とは「絶対に口をきくな」と厳命されていたとのこと。口をきくと瀬古の性格がバレてしまうことを恐れたらしい。「人間の力は底知れない」というのが宗茂のレース経験、選手育成で得た教訓という。「レース前、レース中の調不調も心の持ち方で大きく結果が変わる。一流と超一流との差は失敗したら全て自分の責任、勝ったら周りのおかげと思えるようになれるか否か。私はそこらへんで超一流になれなかった。ピンピンコロリを願望する人が多いが、意識があってもなくても一月くらいは臥せって、お世話になった周りの人に判って貰う時間的余裕を持つ覚悟が必要ではないか」とも。宗茂はまともに健康診断を受けると必ずドクターストップが掛るので、レースに出るためにいつも弟の猛に身代わりで診察を受けて貰っていたと。

熊本駅まえ変貌中

～鹿児島中央駅まえに追いつくことができるのか？～

合同会社桐山経営研究所
中小企業診断士・不動産鑑定士
桐　山　　馨

一般社団法人鹿児島県中小企業診断士協会くまもと支部所属の桐山です。

私の事務所兼自宅がある熊本駅周辺では、現在 JR 九州を中心とした開発工事が真っ盛りです。駅前の目玉となる施設は「アミュプラザ熊本」です。九州新幹線部分開業の 2004 年にオープンした「アミュプラザ鹿児島」に遅れること約 17 年、来春 2021 年に「アミュプラザ熊本」はオープン予定です。

右表の 1 日の駅別乗車人員（2018 年度、JR 九州発表）を見ると、熊本駅は鹿児島中央駅のおよそ 3/4 程度しかありません。現在の土地の地価水準に至っては鹿児島中央駅まえの 6 割程度に過ぎない熊本駅まえ。

はたして熊本駅まえは鹿児島中央駅まえに追いつくことができるのか？

乞うご期待！　　（熊本においでの際はご連絡ください。）

順位	駅名	線名	乗車人員
1	博多	鹿児島本線	126,213
2	小倉	鹿児島本線	36,183
3	鹿児島中央	鹿児島本線	20,834
4	大分	日豊本線	19,067
5	折尾	鹿児島本線	15,758
6	黒崎	鹿児島本線	15,410
7	熊本	鹿児島本線	15,375

熊本駅裏から撮影（駅を挟んだ向こう側右端が建設中のアミュプラザ熊本）

事業承継支援に携わり

鮫島 省吾

2018 年の 3 月～4 月に福岡であった事業承継支援専門家養成研修の受講をきっかけに、事業承継支援に関わるようになりました。
研修の中では、これまであまり知識のなかった税務や法務の面をカバーでき、事業承継計画の作成等も学びました。
また、その研修の中で鹿児島県事業承継支援事務局が 2018 年 4 月に開設される事を知りました。早速、4 月上旬に産業支援センター内の承継コーディネーターに売り込みをかけにいきました。
着任したばかりで、まだ何も決まっていないとの事でしたが、その後も、何回か訪問して状況を教えていただいたりしました。
その甲斐あってか、2019 年は、鹿児島県事業承継支援事務局からの依頼で合計 4 件の事業承継支援に携わらさせていただきました。
関わってきた案件の中で課題と思われた点は以下の通りです。

・経営者が再婚相手の息子を後継者と決めているにも拘らず、県外公務員の当事者は後継者としての決心ができていない。
・家族の経営に対する考え、勢力が 2 分されており、後継者への株の集中、財産分与等について家族内の合意が得られていない。
・経営者からの借入金が多額で相続税の対象になってしまう（繰越欠損なし）。
・後継者（娘婿）が経営者に遠慮して、新事業の事について経営者に十分な相談ができていない。
・別会社を辞めてきた後継者が実質的な運営責任者（叔父）とうまくやっていけるか不安に思っている。

当初は磨き上げのところに関わりたいと思っていましたが、どちらかというと事業は順調に推移している企業が多く、上記のような課題への対応や新事業承継税制適用の可否等がメインの支援となりました。一企業に対する支援が 3 回以内という事もあり、支援事務局が事業承継以前の問題があるところは対象から外していたのかもしれません。
また、全く別ルートで、某金融機関の経営支援の担当者が、鹿児島の中小企業で事業承継する価値のある企業は 2,3 割で残りは事業承継する価値が無いというような過激な発言をしたという事を小耳にはさみました。確かに経営自体がうまくいっておらず、強みもほとんどなく立て直すのが困難な企業も相当数あるかもしれませんが、経営革新すれば立て直す事ができる企業も相当数あるのではないかと思っています。そういうところに貢献するのが診断士の責務ではないかとも思います。
今後は、磨き上げのところにも関われるように、スキルをつけると共に働きかけもしてい

ければ、と考えています。

ゴルフデビューと鹿児島県診断士協会活性化への提言

大山 公士

鹿児島での２回目の勤務は今年で早くも３年目に入りました。鹿児島生活も前回の３年半の勤務と合わせますと、６年目に入りました。企業内診断士のため、診断士活動は協会の勉強会に参加することに留まっておりますが、鹿児島診断士協会の勉強会は実務的な内容が多いので、毎回とても刺激を受けております。また、会長を始め皆様から有益な情報を発信していただいており、協会に所属しているメリットを感じています。

また、昨年の２月からようやくゴルフを始め、ようやくゴルフ歴１年となりました。水俣のレッスンプロに週１～２回教わりに行っております。デビュー戦は 178 でしたが、昨年の７月に 119 まで行きました。しかし、その後低迷し、120～130 台をウロウロしています。

昨年の診断士協会のゴルフコンペはすべてバッティングしてしまい一度も参加出来ませんでしたが、今年こそは参加させていただき、110 切りを目指したいと思います。

ところで、昨年の理論政策研修に参加した際、会場のほとんどが診断士で埋め尽くされている状況を見たときに、県内にこれほどの診断士がいることに驚くと同時に、協会に加入している診断士は一部に留まっていることを感じました。そこで、僭越ながら協会の会員を増やすにはどうしたらよいのか、考えてみました。

まず、理論政策研修の会場を見渡した感じでは、企業内診断士が多数を占めていると感じました。そこで、データを調べてみました。診断協会のデータでは、企業内診断士の割合はコンサルタント会社勤務も含めると全診断士の約６割となっています（図１　2016 年）。

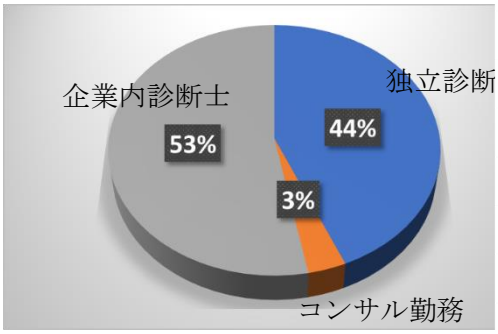


図１　診断士属性

出典:「眠れる資源としての企業内診断士」からデータ抽出して編集

一方、鹿児島県診断士協会の勉強会に参加しますと、独立診断士の割合が高いと思います。よって、協会の会員を増やすには、ボリュームゾーンの企業内診断士に対して、協会の魅力をいかに訴求するかがポイントと考えました。

企業内診断士である小職が協会に所属するメリットとして、以下を感じています。

・独立診断士の活動を知ることができる
・資格更新への手厚いフォロー
・診断業務斡旋（関与できないですが、どのような業務依頼があるのか知ることができる）
・診断士の人脈構築
・研鑽できる場の提供
一方で、企業内診断士である小職がこのようなサービスがあれば良いなと思うことを列挙します。

1. 自分の専門性を確認する場の提供
2. プレゼン研鑽の場の提供
3. 実務従事
4. 財務勉強会
5. 診断士イベントの企画

これらの中で小職が主体的に動けるものについて挙げると、1. 自分の専門性を確認する場の提供、2. プレゼン研鑽の場の提供、5. 診断士イベントの企画　と考えました。本当は 4. 財務勉強会　を主体的に動ける力量が欲しいところですが。

1、2、5 をまとめて考えると、企業内診断士、独立診断士、問わずに、あるテーマに対し、各自の企画を持ち込んでの報告会を開催できないものかと考えました。発表後に質疑応答の時間を設けることで、報告内容に対する反響を確認できるとともに、発展的なフィードバックが得られると考えます。

終了後に懇親会を開催すれば、報告に対する詳細な感想も聞くことができますし、人脈を広げる機会になります。また、参加者は診断士に限定せず、広く募ることで、発表を聞いた人の中から、この人に仕事をお願いしたい、というような話も出てくるかもしれませんし、診断士の活動をより多くの方に知っていただく機会なると考えます。

このように、診断士の研鑽と認知度の向上を兼ねた報告会の企画を行うことで、診断士の認知度向上につながるだけでなく、協会への加入者の増加につなげることができるかと思います。

これまで協会の活動になかなか貢献することができませんでしたが、少しでも鹿児島県診断士協会の発展のために、ゴルフコンペへの参加を含め、積極的に関わらせていただけましたら幸いです。
引き続き、皆様のご指導をお願いいたします。

年頭雑感（昨年を振り返って）

黒坂　和民

昨年は、歴史的記念の年となった。新たな世代の幕開けに国民の多くが、希望ある未来を期待したものと思う。

改めて昨年を振り返ると、政治面では７月の参院選を過半数確保で乗り切り、政権基盤を確固たるものとした安部総理の在任期間が、歴代１位だった桂太郎を抜き憲政史上最長となった。天皇陛下の即位、トランプ大統領の国賓来日、Ｇ２０大阪サミットなどの課題を無難にこなし支持基盤は高水準を維持している。外交面では精力的に海外首脳と会談し、米国大統領との蜜月関係を誇示する一方、対韓関係は戦後最悪の状況にあり北朝鮮問題も解決の糸口が全く見えない現状である。

経済面では株価を評価の基準に見ると、バブル崩壊後最高値となる等、戦後最長の景気回復と言われている。要因としては、東京五輪に向けた投資や消費、災害復興等が下支えとなっている。尚、10 月から実施された消費増税の影響は、前回（14 年度）の増税時に比して、駆け込み需要、反動などの影響は小幅となっているようである。一方、消費への影響は長期化することが懸念される。

産業界では身近な存在で、庶民金融として親しまれてきた日本郵政グループで、国民の信頼を裏切る保険契約面での不正が発覚した。民営化に伴う営業実績本位の利益最優先経営が招いた不祥事と言える。

社会面では京都アニメーション会社の放火事件が世間に衝撃を与えた。犯人の身勝手、理不尽な動機で、単独犯による事件としては過去最多数の方が犠牲となった。

昨年は改元の年で皇位継承の行事が話題の中核となったが、日本列島はこれまでの想定を超える規模の台風に次々と見舞われ、多数の死傷者や浸水被害が発生し、住民生活に深刻な影響を及ぼした。豪雨や台風が発生する原因は、地球温暖化との関連が疑われている中、９月に行われた国連気候サミットで、北欧の少女が各国首脳陣の環境対策への姿勢を糾弾し、世界に大きな影響を与えた。「チコちゃん」ならぬ「グレタちゃんに叱られた」一幕である。

12 月に入って、アフガニスタンで人道支援に取り組む中村哲医師が、現地で武装集団の凶弾に倒れ世界に悲しみが広がった。30 年以上に亘って難民救済に取り組み、灌漑事業で砂漠を緑の大地に改良する等、住民の生活改善に奉仕された。アフガニスタン政府は尊敬と感謝の意を表し、国を挙げて追悼が行われた。真に聖人と呼ぶにふさわしい中村医師の非業の死は、日本にとって大きな損失となった。

大晦日を迎えて世界を驚かすニュースが飛び込んだ。カルロスゴーン被告の国外逃亡である。日産自動車の経営再建を果たし、救世主として世界に名声を博したが、証券金融取引法違反で日本の検察に突然逮捕され保釈中の身であった。用意周到に計画された逃亡シナリオは、日本の司法制度に一石を投じている。情実を断ち、コストカッターと呼ばれた合理主義者の被告が巨額のコストを掛けた逃亡劇となった。

被告の身勝手な行動は、過去の名声を汚したばかりでなく、自らの将来まで犠牲にしている。今後の人生は国際指名手配犯として行動が制限され、企業人として表舞台での再起は絶望的である。経営者として致命的な選択をしたと言えよう。又、記者会見等で日本の司法制度を厳しく批判しているが、克って自身の言葉で次のように述べている。「グローバル時代に必要なことはアイデンティティを失わず、多様性を受け入れること」と、自らは多様性を受け入れることが出来なかった様である。

総評としての令和元年は、災害の記憶が鮮烈であったが明るい話題もあった。ラグビーワールドカップでの日本チームの活躍である。強敵を次々と撃破し、日本中に俄かラグビーフアンが誕生した。外国人選手をリーダーとした混成メンバーながら、チーム力を発揮し「ワンチーム」の語源が生まれた。又、女子プロゴルフ界では渋野日向子が最初の挑戦で、樋口久子以来 29 年ぶりにメジャー制覇を達成した。過去、岡本綾子、宮里藍などの実力者が長年挑んで達成できなかった快挙である。

学術文化面では、吉野彰氏がノーベル賞（化学）を受賞された。民間研究者としては、平成２年に受賞した田中耕一氏（島津製作所）以来２人目である。

令和元年の日本企業のテーマは、「働き方改革」と「健康経営」である。働き方改革制度は本年４月から本格的に始動するが、中小企業は時間で稼いできた一面があり、残業時間の制限、有給休暇の完全消化等、稼働時間が実質減少する下で生産性向上が求められる。

又、昨年は平成８年来（リーマンショック）減少を続けていた企業倒産が増加に転じている。原因は人手不足、後継者難、金融機関の対応変化等に加え、各地で発生した自然災害が追い打ちを掛けている。世界経済も減速懸念があり、内外共に経営環境は厳しさを増し、今後、倒産が増加すると予測されている。尚、県内の倒産は昨年減少しているが増加に転じることが懸念される。本年は、国体開催県として官民相互で活力を発揮して欲しい。

新年を迎え、大発会で株価が下落するなど不安な出足となったが、その後回復を果たしている。日本経済は、オリンピック、パラリンピックを控えムードは上げ潮であるが、閉幕後の反動等が懸念され、浮足立っている場合ではないと感じている。一方、世界経済も米中貿易摩擦やイラン情勢、英国、香港問題、日韓関係など不透明感が増している。又、世界各国で分断、対立が深まり相互不信が深刻化している様相にある。

中小企業にとっては、急速に進むデジタル経済化の波に乗れるかが問われている。変革する産業構造に対し、経営者の意識改革こそ最優先課題と言える。活力ある一年を期待したい。

末筆となりましたが、同士の皆様の健康と活躍を祈念致します。本年もよろしくお願い申し上げます。

「小槌のりネズミ」小幡人形（滋賀県）

岩元 耕児

「小槌のりネズミ」小幡人形（滋賀県）

上の写真は、滋賀県東近江市の代表的な郷土玩具である**小幡人形（土人形）**です。大阪商人、伊勢商人と並び**日本3大商人**（３商人とも関西です。さすが！）と言われている**近江商人**の発祥の地として知られる東近江市五個荘地区**小幡町**の旧中山道沿いの地で、江戸末期から作られているそうです。

近江商人の商売の心得（経営哲学）として、有名なのが「**三方よし**」です。「**売り手よし、買い手よし、世間よし**」というものですが、それは「商売においては**売り手と買い手が満足**するだけでなく、**社会に貢献**できてこそ良い商売と言える」という考えです。まさに自分たちの利益だけではなく「**お客さまと社会のお役に立つ**」ということが重要なようです。

この有名な近江商人の経営哲学である「三方よし」という表現ですが、実は近江商人が持っていた経営理念を表現するために、**後世になってから作られた**ものだそうです。いずれにしても、**商売繁盛の本質**を突いている考え方ですので

私自身も心して前に進んでいきたいと思います。

地球環境問題と中小企業の環境経営

久留　正成

2001 年に U ターンする前に、創業のための事業計画書を策定しました。

疲弊していく地元の中小企業の経営支援することと、これから大変なことになると予測される地球環境問題に貢献できないかという考えのもとに、「環境＝経営＝人づくり＝地域づくり」活動をしようと考えました。

「環境改善にまず取組み、人の意識・行動を変え、活動の基本となる全員参画改善活動や PDCA での進捗管理を進め、さらには数値化・見える化・標準化・5S さらには QC 手法・TPM・IT などの考え方・手法を導入・活用することによって、地元中小企業の経営体質を高められるのではないか」という構想です。

もともと、ISO9001・ISO14001 を国内導入当初から構築・運用していましたが、当時 ISO コンサルが 1000 万円といわれており、県内に多い中小企業には負担が重たく、「ISO は勧めない、コンサルしない。中小企業の身の丈にあう小さな環境経営システム KES だけを普及しよう。」と決めました。

U ターン・創業して、予想はしていたものの、「あなた誰？環境？何故しないといけないの？鹿児島の環境は豊かだよ？KES それ何？」という状況の中、広報・営業活動が 100%でした。

「生活保護を受けなくてもいいの？」と言われながら、18 年が経ちました。
会社員時代と違って、お客さんから頂ける謝礼のありがたみが骨身に染みました。また、技術屋だったので、創業からの勉強は、ほとんどが広報・営業関連でした。

U ターンして、いろんな人達に助けられました。
2 年目に NPO 法人を設立しましたが、最近では NPO 法人として、毎年 250 社程度を訪問して環境経営審査をしています。
ただ経営的には、ボランティアベースなので苦しいままです。

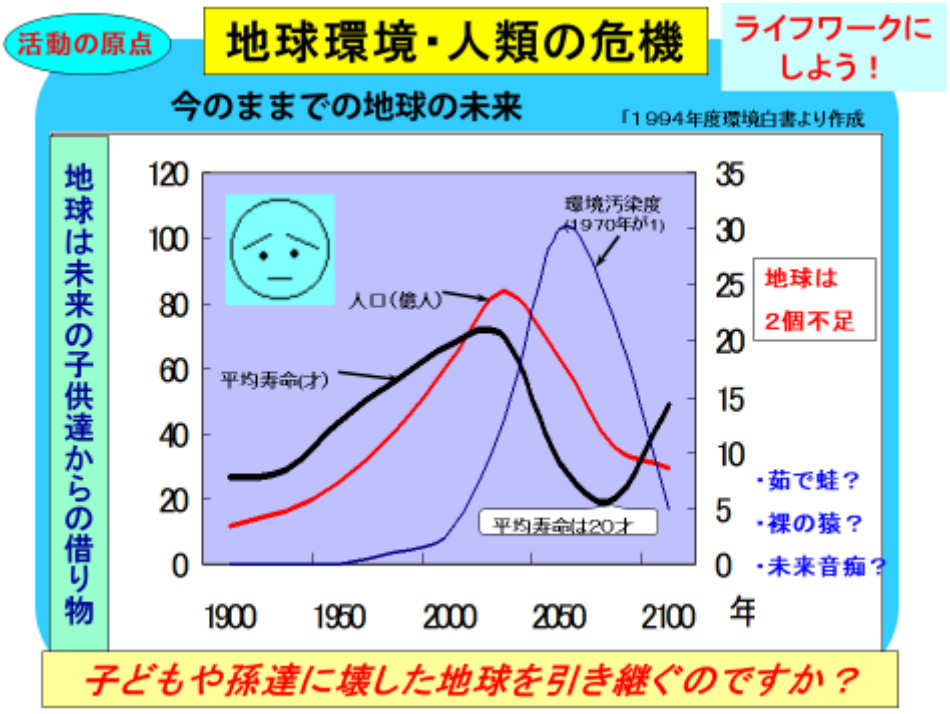
当初の構想は、少しずつ実を結び始め、「環境・エネルギーの視点で人づくり・経営体質の向上・地域貢献」を実感できて、喜んでいます。
18 年の間に、活動当初「省エネ技術」「再生可能エネルギー技術」「リサイク

ル技術」など先行していた日本は、他の国に抜かれ、環境活動も低迷し、環境国際会議では、毎回「化石賞」を世界の NGO から頂ける国となっています。

17 歳のスウェーデンのグレタ・ツゥンベリさんは国連の席上で「私たちは絶滅に差しかかっているのに、あなたたちが話すのは金と永遠の経済成長だけ。
若者たちは、あなたたちの裏切り行為に気づき始めている。あなたたちを注視している。 私たちを失望させる選択をすれば、決して許さない。」と抗議して、世界では 400 万人の若者の抗議デモがありました。

地球温暖化による台風や豪雨等で、2018 年に世界で最も被害が大きかったのは日本であり、被害は約 4 兆円と言われています。

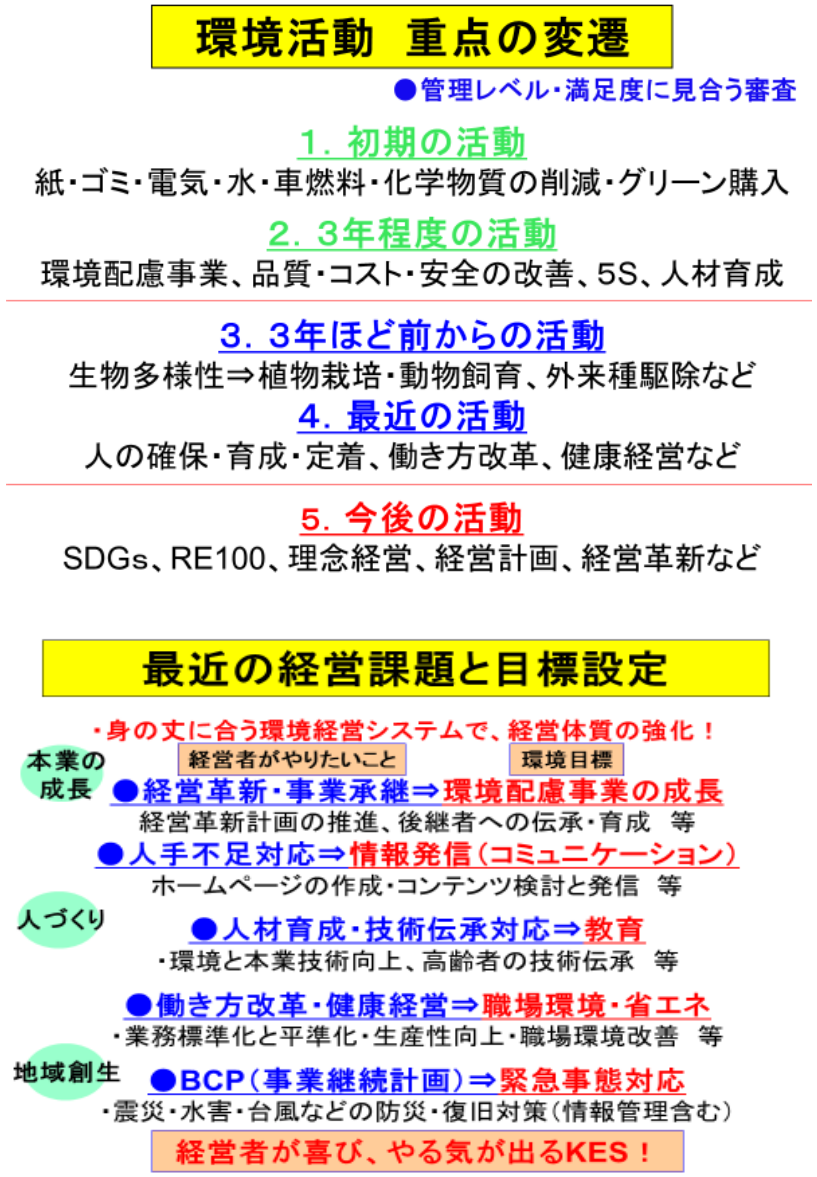
下の図は、1994 年度環境白書に掲載された「今のままの地球の未来予測データ」を図にしたものです。会社員時代から環境講座・講演会でよく使っていますが、最近、未来予測図が現実になるようで、不気味さを覚えています。



日本では環境意識がなかなか高まりません。「環境」とか「経営システム」と訴えても、「環境活動とは、紙・ごみ・電気の削減」、「経営システムは ISO と一緒で中小企業には重たい、面倒、取得だけが目的だ」との理解不足・偏見が多く、鹿児島県内での環境経営システムの導入は、全体の 1-2%です。
そこで、経営者が最も関心のある「経営的課題」を環境目標に掲げ、改善を進めることによって、生産性を上げ、人を育て、活性化させ、結果、環境問題

も解決するという戦略に大きく変えようと動いています。

これまでの環境経営活動の重点は、以下のように変遷しています。



既に、経営革新計画をKESで推進する事業所や事業所から発生するCO_2を0としている事業所が現れ、SDGｓにも取り組み始めています。

今、環境経営審査員には中小企業診断士的な力量が求められ、また中小企業診断士や農商工経営支援機関との連携が重要になっています。

皆様のご支援・ご協力・連携をよろしくお願いします。

「国運の分岐点」を読んで

今別府　忍

昨年の暮れ、デービット・アトキンソン著「国運の分岐点」を読んだ。その内容は中小企業支援に携わる筆者にとって衝撃的である一方で共感できる部分も多かった。

国内においてバブル経済及びバブル経済崩壊後の失われた 30 年については、これまでに行き過ぎた金融緩和や不良債権処理の遅れなどさまざまな分析や評価がなされてきた。ところがアトキンソンは、日本経済の長期低迷の原因は生産性の低さであり、生産性停滞の主因は、「規模が小さい中小企業が多すぎる」ことだという。企業規模が大きくなると規模の経済や範囲の経済が働くことから、企業規模と生産性には正の相関関係があることが知られている。日本は他の先進国と比べて従業員 20 人未満の中小零細企業が多すぎるというのだ。その背景として 1963 年に制定された中小企業基本法によって、中小企業がその地位に留まるインセンティブが発生したことを指摘している。具体的な中小企業優遇策として、法人税率の軽減、交際費の損金処理、外形標準課税の軽減及び法人事業税の減税、少額減価償却資産などを挙げている。他にも旧民主党政権時代に金融担当大臣を務めていた亀井静香氏が野党の反対を押し切って通した「中小企業金融円滑化法」、通称「モラトリアム法」が挙げられる。これはご存じのとおり、事業運転資金や設備資金などを融資している金融機関に対して、「返済困窮者からの返済の猶予や返済期間の延長、金利の減免などの条件緩和要望には誠実に対応すること」とした法律で 2009 年 12 月、リーマン・ショックに伴う経済的な混乱に対応するために施行された。モラトリアム法は 2013 年に終了したものの、金融庁への任意報告という形が残されたため実質的には 2019 年 3 月まで継続した。

筆者は以前、県内製造業の業況調査を行っていたが、そこで安値受注に苦しむ経営者の声を幾度となく耳にした。中小企業優遇の問題は、本来淘汰されるべき企業を延命させているという点だ。産業界が健全に活性化するには適度な新陳代謝が必要である。社会のニーズに対応できなくなった企業は市場から退出し、新たな担い手が市場に参入する。こうした新陳代謝や淘汰された企業の従業員を健全な企業が雇用することによる規模拡大を通じて企業とそこで働く人たちの生産性が高まっていくのが健全な状態であろう。

しかし、本来退出すべき企業が金融の条件緩和等の優遇措置を受けて延命していると、その企業の存在が、同じ市場にいる健全な企業の勢いを削いだり、経営体力を奪ったりすることになる。延命企業が安値で受注すると、健全な企業までが価格競争に巻き込まれて適正な利益が得られなくなる。結果、新陳代謝や規模の拡大が進まず業界全体の生産性の低下を招くことになる。

中小企業支援に携わる者として年末年始にかけていろいろと考えさせられた。われわれ診断士はどうふるまえばよいのだろうか。それがたとえ淘汰されるべき企業であってもクライアントにとっての最善を尽くすべきであることは専門家の職業倫理として当然である。一方で、やはり中小企業を中堅企業に育てるという視点が必要ではないか。

製造業の場合、20 人は一人の経営者が目の届く範囲の目安といえる。それを超えるということは支店や工場などの事業所を複数にするということになり、もう一人の管理者が必要となることを意味する。経営者の多くは自分の目が届かなくなることに不安を感じ、そこで躊躇してしまう。そこで、その不安を取り除き社長の将来構想を膨らませたり、「見える化」したりすることで規模拡大による生産性の向上実現を支援するのが診断士の大きな役割ではないか。まずは本書の一読をお勧めします。

日刊ゲンダイ DIGITAL より引用

探　求　を　楽　し　む

月　野　木　勝　彦

【　事業承継・再生　】

『会社の相続』(小学館　弁護士後藤孝典著) を読んで、特に感じた点を以下に挙げてみたいと思います。

(1) 株式の承継に伴う相続税、贈与税の負担が、外国に遅れてではあるものの、平成30年度税制改正による事業承継税制の拡充により、大幅に緩和されたこと。

(2) 遺留分が事業承継の足枷になっているが、今回の民法の改正で、遺留分に関する権利の行使が現物返還原則から金銭債権化され、株式や事業用不動産の共有に伴う困難な問題から解放されること。

(3) 名義株については、真の株主は、現に出資した者であるという判例が確立していることを基本に考えること。

(4) 特定の株主の議決権を他の株主の２倍にするとか、属人株という１種の種類株式ではあるが、これを導入にすることが事業承継に効果的なこともある。

(5) 民事再生と会社分割の組み合わせ、債務免除益と損金の計上のタイミング、組織再編適格税制、税理士・公認会計士との連携とか、事業承継には会社法、法人税法、会計学が絡む総合的な判断が求められるため、有能な弁護士でないと中堅企業の事業再生は難しいであろう。

また、平成24年に発行された『いのちの再建弁護士』(角川書店、村松謙一弁護士著) を当時読んで一種の清涼感を覚えたものですが、これが昨年テレビドラマ化され、楽しませてもらいました。

【　どんぶり勘定　】

昨年７月に開催された、かごしま産業支援センター主催の『支援機関支援能力向上研修会』で、よろず支援拠点全国本部専門家立石裕明氏の講義を聴き、同氏の著書『どんぶり勘定だからこそあなたの会社は伸びる』(きこ書房) を購入しました。

どんぶり勘定で良いかいな、という素朴な疑問を持ちつつ読みました。どんぶり勘定でも長く事業を続けてきたから大したものだ、だからこそ伸び代はある、ということなのでしょう。

難しい理論より、売上高の大きな先から５先並べてみる、それらの利益の獲得はどうか書き出してみる、すると売上高は小さいが利益は大きい、売上高は大きいが利益は小さい、これで営業の方向性を考え直してみよう、という取組み方にあらためて納得しました。

【ＤＩＭＥ】

Ｄｉｐｌｏｍａｃｙ（外交）、Ｉｎｔｅｌｌｉｇｅｎｃｅ（諜報）、Ｍｉｌｉｔａｒｙ（軍事）、Ｅｃｏｎｏｍｙ（経済）の４分野で戦略を考えることを「ＤＩＭＥ」と言うそうです。中国の「一帯一路」構想は、明らかにこのＤＩＭＥの戦略で進出しています。アメリカが日本を守ってくれるというのは幻想にすぎないと思います。基本は、自分の国の安全保障は、自分の国自ら勝ち取らなければならないということかと思います。そうであるならば、私たち国民は、インテリを自認する国民はなおさら、アメリカのネオコンを含む共和党や民主党の考え方、国務省（≒外務省）や国防総省（≒防衛省）の考え方を知り、もちろん、中国の内外政策の実態を知り、自国日本のＤＩＭＥというものを認識する必要があろうかと思います。テレビ、新聞の一部の表面的な情報からは、世界情勢の動向を的確に認識することは残念ながら難しく、本音のテレビ討論番組の視聴に加えて、本屋に足を運ぶことも必要かと思わされます。

【ちくちく言葉とふわふわ言葉】

産経新聞「朝晴れエッセー」（９月６日）に「ちくちく言葉」と「ふわふわ言葉」の記事がありました。兄弟げんかをしているママが子供に聞くと、「ちくちく言葉は、相手が嫌な気持ちになる言葉、うれしい気持ちになるのがふわふわ言葉」と返ってきたとのことです。小学校の担任の先生が教えてくれたようです。何ともほほえましい言葉であり、すてきな親子の会話だなと思いました。

【どうする日本】

南洲翁遺訓１７に、「正道を踏み国を以て斃（たお）るるの精神無くば、外国交際は全かる可からず。彼の強大に畏縮し、円滑を主として、曲げて彼の意に従順する時は、軽侮を招き、好親却（かえっ）て破れ、終に彼の制を受くるに至らん」とあります。権謀術数の渦巻く国際社会の厳しく難しい状況については、周知のとおりですが、たとえば、隣国韓国との関係も、お互い独立した国家同士であり、おもねらず、へりくだらず、見くださず、正々堂々と外交することが肝要かと考えます。政治家が、わが国の存立基盤の堅固を目途として、安全保障の観点を含め外国交際をしっかりとこなしていく

には、私たち国民自身の、わが国とわが国を取り巻く国際環境についての客観的な認識の獲得とこれに基づく指導層への叱咤激励が必要かと考えます。要するに、国の存立は、私たち国民自身の態度、有り様にかかっているのではないでしょうか。

岩波文庫より引用

短歌２首

国と国約束いつもやぶるるむつかしき世の動きなるかも

外交はむつかしけれど上(うへ)に立つ人ら肚据(はら)へて取り組みまほし

「Ｄｅｅｐ天文館 ★ 路地裏 探検記 ～2019 秋」

瀬戸口 晴子

人生は、ちょっとしたキッカケで、思いも寄らない深みに どっぷりハマってしまうものですね。2019年夏、SNSで誘われた下記のワークショップ企画に、軽い氣持ちで応募した時には想像だにしていなかった怒涛の日々を振り返ってみました。

テンラボは鹿児島市の魅力を見つけて、その魅力をもっと楽しく磨いていく「PLAY CITY ！ DAYS」というワークショップ＆実践プログラムを開催いたします。129 名の仲間と「見つめる」「編集する」「発信する」ことを通して、まちと繋がっていくプロジェクト。メンバー1 人 1 人が撮影してきたお気に入りの鹿児島市を元に、市の魅力を考えたり、その魅力を多くの人に届けるプロモーション動画を製作したり、鹿児島市の魅力をもっと楽しく磨くための仕掛けを考えて実践してみたり、こんなことを 129 名の仲間たちと4ヶ月間過ごしていきます。私たちと一緒に鹿児島をもっと楽しみませんか？

DAY0 ： 8/25(日) 鹿児島市役所 みなと大通り別館
DAY1 ： 9 /8(日) 鹿児島大学 学習交流プラザ
DAY2 ： 9/28(土) MBC メディアホール
PLAY CITY! FES ： 12/8(日) 鹿児島大学 学習交流プラザ
DAY3 ： 12/22(日) 県民交流センター 大ホール

※ https://www.ten-lab.org/project/play-city-days/ より転載
※ 130 名 ← 鹿児島市政 130 年記念

上記の[半日～終日×5回]という日程だけでも十分ハードに思えましたが、実際に参加して分かったのは、インターバルでそれぞれの自主活動を実践しては製作・プレゼン・発信するという、予想を超えた展開！本稿では、9/28(土)[DAY2]で、つい熱く夢を語ってしまったばっかりに、夜な夜な天文館を徘徊することなった2019年秋の夜長の思い出を綴ります。

・・・言葉に発してみて初めて、自分の思いに フト 氣がつく瞬間ってありますよね。。。
まさに 9/28(土)ワークショップ中の雑談で、日頃のモヤモヤが、突然、結晶化したのでした。

「かつては南九州随一の繁華街と言われていた“天文館”が、鹿児島中央駅周辺や騎射場・鴨池・与次郎地区、さらに南の谷山エリア等の発展に伴い、年々、相対的に元氣が無いように思われて、なんだか残念・・・」、「昔から憧れていた天文館エリアに居住するようになって

久しいながら、友人たちと利用する店は、テレビや雑誌で見かけた話題の店や新規OPEN店になりがち。異世代が通う昔ながらの個人店に行く機会は皆無。足を踏み入れたことがないエリアや路地も結構あり、“天文館の知らない側面”がチョット氣になっている･･･」、「タカプラ跡を中心とした千日町エリアの大規模再開発が始まった今、昔からの店が消え、全国チェーン店が増え、まちの風景や人の流れが急速に変わり、そこはかとなく せつない氣持ち･･･」等々。

そうして、講座終盤に、それぞれが**『挑戦してみたいテーマ』**を紙に書き出す段になって、急に脳内に降りてきたフレーズが、**『Deep天文館★路地裏探検』**でした。

「リーダー役は大変！到底無理！」という理性の声とはウラハラに、「一人では絶対踏み出せない！この 130 名の中に同志がいるかもしれない！再開発が進む今、早く取り組まないと、どんどん失われてしまう･･･」と焦る思いで、最後の最後、衝動的に立ち上がってしまいました。

「平成～令和という時代の境目の 2019 年、市内あちこちに巨大クレーンが林立し、多くの再開発さらに世代交代など環境変化が激しい鹿児島の今をみつめて、消えつつある“Deepな天文館”を自分の眼と足で探訪･体感して、記憶と記録にとどめておきたい！一人で始める勇氣が無いので、仲間が欲しいです～！」とプレゼンし、計17の企画に希望者を募った結果、大変ありがたいことに、9名の素晴らしい有志を得て、小さな一歩を踏み出すことになりました。

【参考】 2019 年秋、鹿児島市内で進む再開発･ビル建替･大規模工事など

天文館 千日町 1･4 番街区 ／ 中央町 19･20 番街区 ／ 天文館巴里屋ビル建替
交通局跡 ／ 谷山駅周辺 ／ 本港区エリア ／ 鹿銀本店＆別館 建替 ／ 相良病院 建替
ドルフィンポート（2020 年 3 月末閉鎖）／ ふるさと屋台村（2020 年 12 月末閉鎖）

探検隊メンバーは、20 歳になったばかりの大学生春ちゃん、初産を翌月に控えたプレママよっちサン、ナント東京から参加します宣言のコッチ青年、バリバリ働くキャリアママのヒトミさん＆カイちゃん、天文館育ち吉野在住のジュンコさん、美従姉妹コンビのマッスー＆ミッキー。

全員それぞれに、仕事・家事・育児・介護・学業等で連日超多忙な為、言い出しっぺ探検隊長としては、皆様に無理なく楽しく続けて頂けるよう、自主性を大切に、それぞれの得意技や個性を活かしながらのチーム運営とフォローを心がけました。

FES開催までの実質一ケ月半の間に、まとまった成果を出すべく、広い天文館エリアを手分けしてリサーチし、作戦会議で検討した結果、最初に探検したいエリアは、今現在の天文館で最もディープと思われる「新宿街」に決定。通行客の多い「二本松馬場通り」に面し、「サンディズインホテル」の斜め前ながらも、この薄暗く細い袋小路へ入る人影は滅多に見られず、多くの方が氣がついてさえいない路地です。昔の天文館には、このように小さな店が並ぶ路地がたくさんあったそうですが、ビル建設等で 今やすっかり消えてしまった模様です。

第1回探検となった 10/18(金)19:00、探検隊員4人でオソルオソル踏みこんだ「新宿街」は、散在する小さな5軒が営業中で、他は既に空店舗・廃屋の様子。各店内は見えないながら、扉越しに常連さん達の談笑やカラオケで盛り上がっている氣配にタジロギ、心理的に高〜いハードルを前にして、全員の心臓はバクバク★ （ ← 今は昔。当時は初々しかったのですね。）

思い切ってドアを開けた一軒目は、その名も「飲来猫」（のらねこ）。母親と調理師の息子さんが営む居酒屋で、12席（新宿街では最大）と広くアットホームな居心地の良さに、それまで

の不安も吹き飛びました。全店踏破してみると、「新宿街」の他店はすべて女将さん一人で営む数席の小さなお店ばかりで、どこも個性的で、常連さんも店それぞれ別々のようでした。

連日、未知の店に足を踏み入れハシゴ酒するほどに、小さな驚きと発見と感動がありました。例えば、矍鑠とした米寿近いオジサマは、市外の某ホームで暮らしながら、タクシー代 5000 円をかけて、「飲み放題・歌い放題 2000 円」という老舗店に通って来ては、おそらくは現役時代から馴染みの女将さんと語らい盛り上がり、若返って帰って行かれました。

「家でボーッとしてるとボケちゃうからネ」と手料理を抱えてバスで通い、暖簾を上げ続ける年齢不詳ママさんも。体調次第で、お店を休業したり早終いしたりしながらも、常連さんたちが時折フラリと顔を出しては（お互いに生存確認？）しばし盛り上がり～。毎晩、釣果を持ってくる常連さんのお蔭で、仕入れは不要だったり。廃業したお店かと思っていたら、実は昼13時から営業して、19時には閉店するニッチマーケティング的 昼呑みパラダイス酒場だったり。。

その一方で、繁盛店がナゼカ突然閉店していたり、ママさんが足を骨折して、提灯が点る頻度が落ちたり。中高年女性が低料金で地道に営む個人店だけに事業承継されるとも思えず、ゆくゆくは消えていくであろう小宇宙の中で、とりとめのない会話を愉しみ、“一期一会”を感じながら戴くお酒は 味わい深いものがありました。

探検後は、店ごとに担当隊員を決めて、ブログ・インスタ・ツイッター投稿で、それぞれが感じた思いや注目ポイントを発信してもらいました。小さな取り組みながら、ブログは既に 3000 近いアクセスを頂いており、PCDメンバーからも、「Deep天文館チームが作った路地裏マップを見て、私も実際に行ってみたら、すごく面白かった！」、「日常から一歩出て行動することへのハードルが下がった。」等々、ありがたい反応をたくさん頂け、やりがいを感じました。

もしお時間がありましたら、ブログを覗いていただければ嬉しいです。

【ブログ・SNS発信中】 ・・・「Deep天文館」で検索してみてくださいネ（≧▽≦）♪

- **ブログ＝** https://deep-tenmachi.hatenablog.com/
- **インスタグラム＝** https://www.instagram.com/deep.tenmonkan/
- **ツイッター＝** https://twitter.com/Deep57124319

ブログ・SNS発信と並行して、店舗情報を掲載したパンフレット「Deep天文館★路地裏MAP」 ①「新宿街」編、 ②「裏町酒場通り」編を、A4 両面カラー版で、ひとまず2種完成させました。が、探訪してみて、常連さんたちが愉しむ、僅か数席の店ということもあり、観光マップのように印刷物として広く配布したり、WEBで大々的に公開したり、という当初の広報計画は敢えて中止することにいたしました。

私自身、大学時代の4年間、東京で暮らしてみた結果、「雄大な桜島に見守られる鹿児島での暮らし」が恋しくてUターン就職し長らく暮らしておりますが、日々の仕事や雑事に追われる中で、知らない世界や未踏エリアはまだまだとても多く、「新鮮な視点で、地元鹿児島を探検して、再発見する愉しみ」に目覚めました。

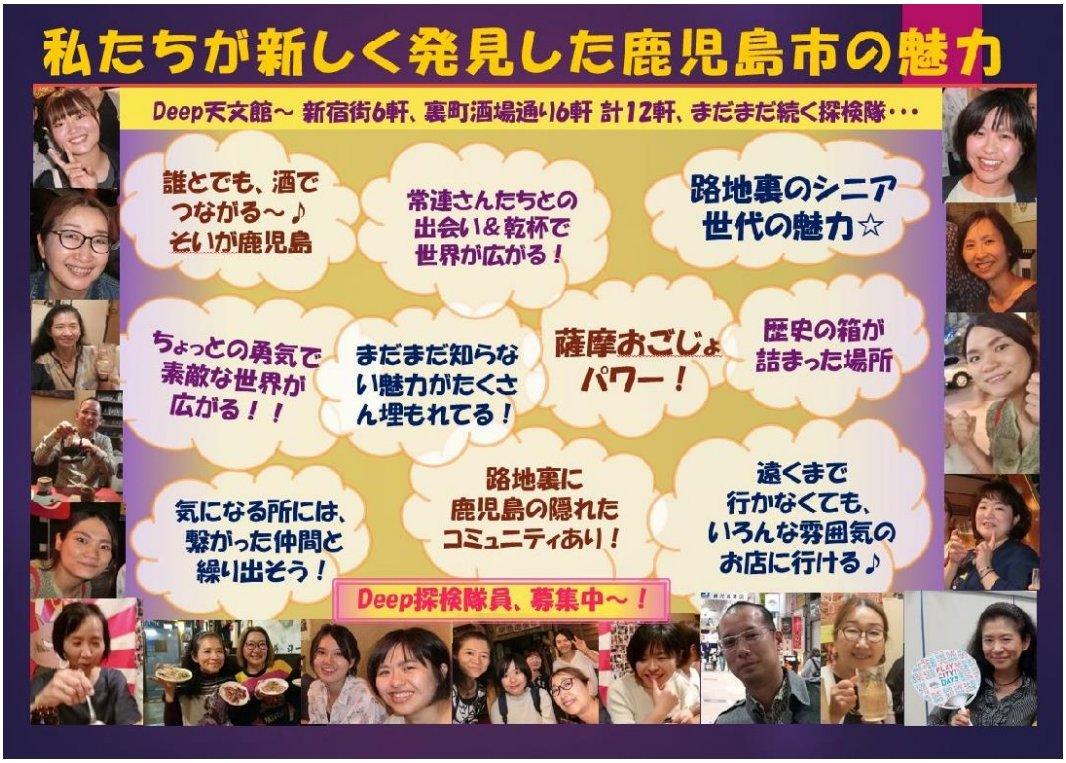
路地裏の小さなお店で“乾杯”し、女将さんや常連さん達との出逢いや語らいを通して、隠れた愉快なコミュニティが宵闇の中あちこちで花開いていることを実感。激動の昭和～平成時代を生き抜いてきた方々の経験談や思い出話や人生訓を伺い、世界が広がりました♪

天文館には、そして鹿児島には、まだまだ私たちの知らない魅力や秘密が、たくさん埋もれていそうです。性年代・来歴の違うメンバーそれぞれに感じ入るポイントや感想も多様で、立ち止まってフォーカスすることで、全員が更に鹿児島への興味や愛着が増したように感じました。

例えば、「変化の少ない日常生活にお疲れ氣味な方」、「新しい出逢いや新鮮な発見を求めている方」、「大都市や海外等ココデナイドコカに憧れている方」に、路地裏での“だいやめ乾杯”で、地元にいても 愉快なTRIPが楽しめることを是非体験して頂きたいです。有名な観光地や人気スポットだけでなく、身近な街角や路地のアチコチにたくさん隠れている多彩なお宝に “氣がつく眼差し” を持つことをオススメいたします。

お蔭様で、12/8(日)FESでのプレゼン大会の結果、「Deep 天文館★路地裏MAP」チームは準グランプリ賞☆を受賞、また思いがけず、個人・企画部門でMPP賞☆を頂きました。師走

を控え、仕事や中小企業診断士活動と並行しての探検＆発信三昧は、不眠不休＆瀕死の毎日でしたが、今となってみると早や懐かしい思い出で、貴重な“青春の一頁”となりました。



本PCD企画、実は、主催の鹿児島市 広報戦略室から天ラボへ委託された「まちおもい“伝え隊！”育成事業」という年度事業のため、いったん『Deep天文館チーム』は解散しました。が、私自身は、ライフワークとして、引き続き 路地裏探検を続け、ブログ等もゆるゆる更新して行きたいと思っております。

・・・まぁ、「単なる酒好きが、大義名分に 掲げてるだけではないか？」というご指摘は、至極ゴモットモとして。（「焼酎マイスター」としての“アクティブ ラーニング”とも言えますw ）

ご同行頂ける有志様を常時募集中ですので、お気軽にお声掛けいただければ嬉しいです！

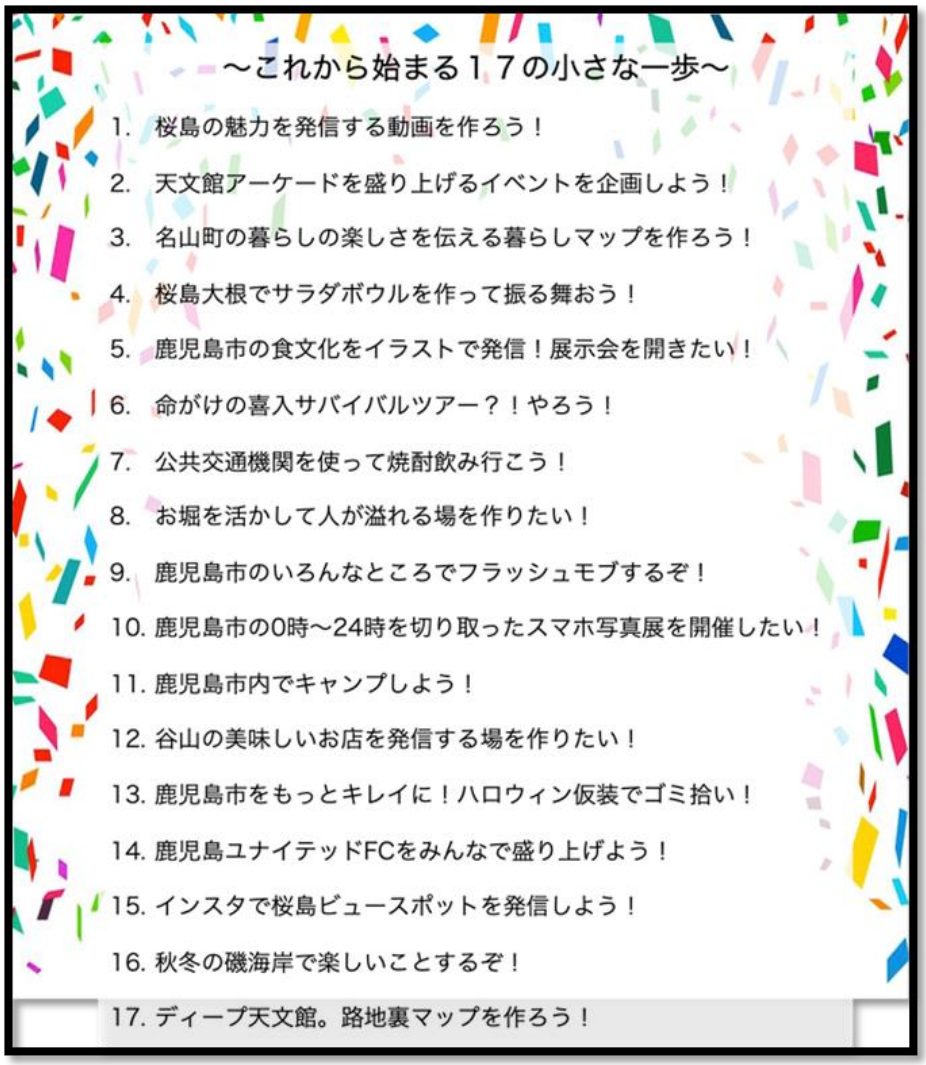
【これまでの探検リスト】

01＝「飲来猫」（のらねこ）
02＝「じゅん」
03＝「島心」（しまごころ）→12/25 閉店
04＝「夢源」（むげん）
05＝「まり幸」（まりこう）
06＝「太州ホルモン」（たいしゅう）
07＝「焼酎ストリート 2019」
08＝「裏町酒場」
09＝「笑船」（しょうせん）
10＝「居酒家 花」
11＝「花小路」（はなこうじ）
12＝「鶴一堂」（つるいちどう）
13＝「りつ子」
14＝「boire」（ボアール）

ここまで、とりとめのない駄文にお付き合いいただきまして大変恐縮です。一見、中小企業診断士活動には、関係ないように思われるかもしれませんが、このPCD企画に参加したことで、知らなかったアプリやサイト等など便利ツールを体験したり、イマドキ若手の方々の考え方やスキルを学ばせて頂いたり、日常生活や仕事上では接点の無い多様な皆さまと様々な議論や活動をご一緒することが出来て、マーケティング的にも大変刺激的な日々でした。

市役所の方々も、今回の事業成果に大変満足されたようで、また来年度も実施されるご予定らしいです。 もし関心があられましたら、是非 ご参加なさってみてくださいね！

【参考】PCD活動公式レポート＝ https://www.ten-lab.org/report-pcd/
PCD 17の企画や実施報告など、コンパクトにまとめられています



【オススメ動画】 https://youtu.be/rFLDALPY4tc

https://youtu.be/XhMWJYoGOEc 以 上